

平成18年度決算の概要について

公立大学法人 和歌山県立医科大学

1 はじめに

和歌山県立医科大学は、平成18年4月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となりましたが、今回、法人として初めての決算を実施し、財務諸表を作成して、平成19年8月28日付けで、設置者である和歌山県知事の承認を受けました。

この財務諸表は、企業会計原則を基本としつつ、公立大学法人特有の会計処理を加味した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成したものであり、本学の財政状態と運営状況を示すものです。

2 財務諸表の概要について

(1) 貸借対照表

貸借対照表は、本学の財政状態を明らかにするため、決算日におけるすべての資産、負債及び資本を記載し、表示するものです。

資産合計額は、約672億2千8百万円です。

土地、建物、器具及び備品等の固定資産合計は、約586億5千1百万円です。

現金及び預金、未収入金等の流動資産合計は、約85億7千6百万円です。

負債合計額は、約90億6千4百万円です。

資産見返負債は、固定資産取得の際に一旦負債として計上をするもので、公立大学法人特有の会計処理によるものです。その他、県からの長期借入金等、固定負債合計は、約44億5千万円です。

寄付金債務（翌年度へ繰越す未執行の寄付金）、未払金等の流動負債合計は、約46億1千3百万円です。

資本合計額は、約581億6千4百万円です。

資本金は、県から出資された土地、建物で、約565億2千4百万円です。

資本剰余金は、損益外減価償却累計額（建物の減価償却費）等によるもので、約23億5千2百万円のマイナスとなります。

利益剰余金は、当期末処分利益 約39億9千1百万円です。

(2) 損益計算書

損益計算書は、本学の運営状況を明らかにするため、一会計期間に属する本学のすべての費用とこれに対応するすべての収益とを記載し、表示するものです。

経常費用の合計額は、約 2 5 2 億 2 千 5 百万円です。

主な内訳は、教育経費 約 2 億 8 千 8 百万円、研究経費 約 5 億 8 千 8 百万円、診療経費 約 1 0 9 億 7 百万円、人件費 約 1 2 5 億 9 千 2 百万円、一般管理費 約 6 億 8 百万円です。

経常収益の合計額は、約 2 5 9 億 3 千 6 百万円です。

主な内訳は、県からの運営費交付金収益 約 3 9 億 2 千 1 百万円、授業料収益 約 4 億 7 百万円、附属病院収益 約 1 9 5 億 7 千 6 百万円です。

資産見返物品受贈額戻入 約 8 億 8 千 1 百万円は、県から承継した資産を一旦負債として計上したものを、減価償却費相当額を取崩して収益に計上し、損益計算に影響を与えない公立大学法人特有の会計処理によるものです。

経常収益と経常費用の差額、約 7 億 1 千 1 百万円が経常利益です。

経常利益は、主に、診療収入の増加、外部研究資金の間接経費収入の増加、人件費の削減等の経営努力によるものです。

臨時損失と臨時利益は、主に、県から承継した資産の会計処理によるものです。

経常利益と臨時損失、臨時利益を合計した当期総利益は、約 3 9 億 9 千 1 百万円です。経常利益以外は、主に、県から承継した資産が臨時利益となる会計処理によるものです。

(3) その他の主要諸表

キャッシュ・フロー計算書

一会計期間におけるキャッシュ・フロー（資金の収支状況）を活動区分別に表示するものです。

利益の処分に関する書類

本学の当期末処分利益の処分を明らかにするため表示するものです。

行政サービス実施コスト計算書

業務運営に関して、住民等の負担に帰せられるコストを表示するものです。

注記事項

重要な会計方針等、必要な会計情報を表示するものです。

附属明細書

貸借対照表、損益計算書等の内容を補足する情報を表示するものです。